



ひかりの都

リハビリテーション西播磨病院だより

発行・編集

兵庫県社会福祉事業団

リハビリテーションセンター西播磨病院

〒679-5165

兵庫県たつの市新宮町光都1丁目7番1号

TEL (0791) 58-1050

FAX (0791) 58-1071



新年のご挨拶

リハビリテーション西播磨病院 院長 横山 和正

皆様、新年明けましておめでとうございます。

西播磨病院も今年で5回目の正月を迎えました。県下、特に、中播磨と西播磨地域の多くの皆様にリハビリの専門病院として入院あるいは外来で利用していただけるようになり、当院職員はますます使命感に燃え、患者さんやご家族のご意見を傾聴しながらリハビリサービスの充実に日夜努めております。高齢社会になって久しい現在、いろいろな病気の治療後には障害が残ったり体力が低下し、元の元気を取り戻すためにはリハビリは欠かせません。また、各地域でいつまでも元気で思いのままの生活を続けるにも運動や専門的なリハビリは助けになります。このようなりハビリに対する需要や要望に応えるために、昨年4月から、介護保険を使った通所リハビリを開始しました。これは、週2回の個別と集団リハビリを約3ヶ月間続け、個々の患者さんの課題を把握し、リハビリによる改善を図り、地域のリハビリやデイサービスへ連携し、各個人に最も必要なリハビリの提供や日常生活へのアドバイスなど、きめの細

かい対応を目指しています。地域の方や退院される患者さんに利用が多く、待ち期間が出る状態です。

当院は、50床の2病棟、100床の入院対応があり、脳卒中、神経難病、脊髄損傷、関節・骨疾患の手術や治療後など、多くの病状に対して入院によるリハビリを実施しております。

毎年、入院される患者さんは増え続け、当院としてもできるだけ十分なリハビリを受けていただき、少しでも早く地域で再び生活が再開できるように努力しております。また、MRI、CT、骨密度測定、筋電図、血管脈波測定など多くの医療機器を備えて、入院および外来診療に対処していますので、診療予定表をご参照の上、ご利用ください。

本年も、西播磨の地に存在感のある県立病院として県民の皆様とともに西播磨病院を発展させたいと考えますので、よろしくご支援をお願いいたします。



平成22年度 患者満足度アンケート調査の結果報告

病院利用者の皆さまが、当院に対してどのような評価や要望をお持ちになられているかを調査し、今後さらにきめ細やかなサービスを提供し満足していただける病院とするため、平成22年10月に、一昨年に引き続き、アンケート調査を実施いたしました。

この度、その結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

【外来編】

1 診療全般について(図-1)

何らかの問題を感じておられる方が全体で12%みられました。

2 接遇態度について(図-2)

何らかの問題を感じた方が全体で9%みられました。

3 病院内設備および病院情報全般について(図-3)

何らかの問題を感じておられる方が全体で15%おられ、一方で、ゆったりとした病院のアメニティに快適性を感じておられる意見もありました。

4 診察日および診療時間の設定について(図-4)

何らかの問題点を感じておられる方が全体で20%おられ、その意見としては、時間帯によって医師や看護師が少ない、

診療日と患者さまの生活サイクルがあわないなどがありました。

【入院編】

1 診療全般について(図-5)

何らかの問題を感じておられる方が全体で25%みられました。

2 接遇態度について(図-6)

何らかの問題を感じた方が全体で18%みられました。

3 職員に対する信頼感について(図-7)

問題を感じた方々の内容をみると、診察や看護・リハビリ訓練内容の説明不足、要望に対する迅速な対応不足、チーム医療としての連携不足などの意見がありました。

4 病院内設備全般について(図-8)

全体で24%の方々が、病室・病棟の快適性において①明るさ、②清潔感、③空調、④ベッドの位置などの要望の順で何らかの問題を感じておられる結果でした。

5 病棟談話室・トイレ・売店など病院内施設の快適性について(図-9)

全体で25%の方々が、何らかの問題点を感じておられま

した。問題点としてトイレの快適さと清潔感が最も多く、売店の充実に対しての意見もみられました。

6 退院後の療養生活に対する支援について(図-10)

全体で18%の方々が何らかの問題を感じておられました。その最も多い内容として、退院後生活に対する支援の方法や内容に関する説明と医療・介護サービスの紹介など情報に関するものが見られました。

総評

アンケート調査の結果、①チーム医療としての診療内容に関する説明不足や連携不足、②職員の接遇、③病室空調やトイレなど院内設備、④院内アメニティなどといった点で病院利用者の皆さまからの要望に答えきれていない点も多いため、わかりました。

今回の結果を病院職員一同が真摯に受け止めて、今後「患者サービス向上推進委員会」をはじめ病院全体で検討してまいります。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

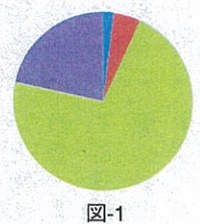


図-1

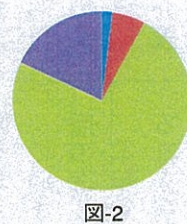


図-2

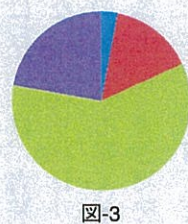


図-3

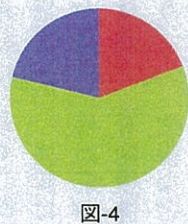


図-4

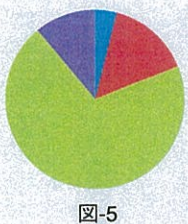


図-5

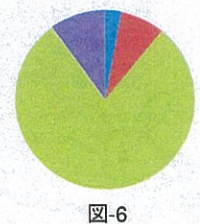


図-6

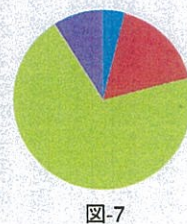


図-7

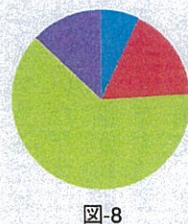


図-8

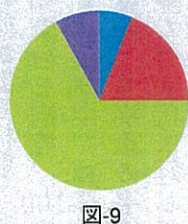


図-9

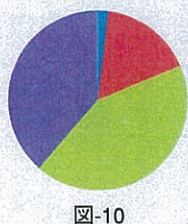


図-10

■ 問題を感じた ■ 少し問題を感じた ■ 問題は感じなかった ■ 無回答



古林信幸様は、平成20年に西播磨病院ボランティアに登録いただき、それ以来、毎週素晴らしい生け花を院内に飾っていただいております。古林様の生け花にいやされる方も多いのではないのでしょうか。

この度は、多忙な中、古林様に生け花によせる気持ちを執筆いただきましたので、ご紹介いたします。

以前、私は神戸市西区のリハビリテーション中央病院で入院患者としてお世話になり、退院後は、たつの市新宮町光都のリハビリテーション西播磨病院で外来患者としてお世話になっています。

院内は、何か寂しい感じがしました。そこで、定年前に事故で、下半身不随の障害を持ち、車いす生活を余儀なくされましたが、現役当時から続けていた生け花活動はどうかと思いい、西播磨病院ボランティアに登録しました。

生け花活動は、平成20年3月17日に開始しました。当初、花屋の

花ばかり使っていました。季節感がないことに気づきましたので、患者さんが季節感を感じることができる「雑草」の生け花に切り替えることにしました。

花は季節の香を運びます。野や山で出会う花はもちろん、道ばたで人知れず咲いている「雑草」のような花や草でさえ、季節を感じさせてくれる姿はとても愛らしいものです。ふだん忘れていた季節感を花に教えられると、たとえ心がささくれだっているときでも、ほっとなごんでくるような気がします。

花屋さんにはたくさんのお花がふれています。楽しんで、たっぶり生けて、季節に関係なく楽しむのもリッチでいいでしょう。

でもこのごろは、日本の季節風土に合わせて咲く和の風情ある花を、たとえ一輪でも部屋に飾ると安らぐという人が増えてきたようです。和の雰囲気を持つ花が、私たちの暮らしになじんでくれることを実感したせいでしょうか。身近で自然な花を美しいと感じる心を大切にして、季節を味わってください。

花を手で折るといのは、いわば花の生命を縮めること。花が好

きであればあるほど、花を切るのはつらいものです。自分で育てた庭の花でさえ、痛ましくてなかなか切れないのですから、ようやく咲いた野の花を摘むのはためらわれます。

でもなかには、次から次へと花をつけていくたくましいものもあります。間引きが必要なほど生きたる草もあります。そういうものは、必要な分だけを採集して生けることで、花に新しい生命が生まれてきます。病院で多くの人に愛でられると、花の命が延びることになるのです。

今は、身近な花や雑草を使って感動する生け花に努力しています。が、どうしても採集が出来ないときは健常者の方に手助けをお願いしています。

最後に、光都フレスコクラブの話を書かせていただきます。

皆さん光都フレスコクラブをご存じでしょうか？光都フレスコクラブは、子供から高齢者で構成し、12歳から70歳と年齢差が幅広く、障害種別も色々です。私は車いす使用者のため、クラブ活動に大変苦労していますが、ふれあいスポーツ交流館の体育指導員及びスタッフの方々に助けられ、ニュー

スポーツ、卓球、グランドゴルフ等に挑戦しています。毎日使っている筋肉や姿勢と違い、クラブ活動に熱中している時は、何だか違った緊張感や不思議な感覚でリハビリが出来るので体調が軽く感じたり、一瞬の時間ですが障害を忘れて楽しいひとときを過ごしています。会員の皆さんにとっては、毎月1回のリハビリ活動ですが機能回復、現状維持に一生懸命頑張っています。

運動の苦手な人には文化的な活動を行っています。

光都フレスコクラブの活動に関心のある方は、ふれあいスポーツ交流館川口次長へお尋ねください。



足浴のすすめ

足は第2の心臓
とも言われています。

心臓からのもつとも離れた位置にあるため血行が悪くなりやすく、冷えやすい場所でもあります。

足を温めることによって血行が改善され、体全体の血液循環も良くなり、全身を温める入浴と同じ効果が期待できます。さらに内臓への血流がよくなり内蔵機能を支配している自律神経の働きも正常化され、続けて行うと体質改善にも役に立ちます。昔から伝えられているこの足浴を現代の私達ももう一度見直してみませんか？



★方法

①お湯を入れる容器を用意します。

足首の上くらいまでお湯を入れても余裕がある程度のもので用意します。ふくらはぎまで浸けたい場合は、底の深いバケツ等を準備しましょう。

②容器にお湯を入れます。温度は40度前後（お風呂と同じくらい）にしましょう。

③お湯に足を浸けます。時間は、長時間浸かるのではなく数分、15分前後が基本です。（特に冬場はお湯が冷めやすいので、ポットなどで熱いお湯を準備しておいてもよいです）

④お湯から足を出し、足をタオルで拭きましょう。

★注意しましょう

- ・1回で効果を期待せず、根気よく続けましょう。
 - ・1回に長時間足浴をすると、エネルギーを消耗し、疲れてしまいます。
 - ・足浴が終わった後、足の指の間まで十分に水分をふき取り、靴下を履くなど保温しましょう。
 - ・体調が悪い時は控えましょう。
- お湯の中で、軽く足裏をマッサージしたり、お好みの入浴剤やアロマオイルなどを入れてみると、よりリラックスできますよ。



着任のご挨拶

リハビリテーション西播磨病院
高次脳診療科医長

櫻林 哲雄

このたび10月1日よりリハビリテーション西播磨病院に高次脳診療科医長として着任いたしました。私は平成14年に大学を卒業し、神戸大学精神神経科に入局し1年間勤務しました。その後、市立加西病院という中核病院で2年間勤務し、当時の神戸大学と愛媛大学の教授に許可をい

ただき愛媛大学精神科で5年半の間、認知症や高次脳機能の勉強をしてまいりました。私が5年半の間に経験したことを着任の御挨拶として少しですがお話しさせていただきますと思います。

赴任当時の愛媛大学精神科では精神科一般臨床も行われていたのですが、認知症疾患の、特にピック病や失語症を伴う神経疾患に関する臨床研究がおこなわれていました。私は、1年間臨床をした後に、大学院に入学し、精神科臨床をしながら勉強していたのですが、研究に加えて、愛媛県の山間部の中山町という所で訪問診療を行っていました。認知症や神経疾患一色で臨床や研究をしていたのですが、優秀な先輩や同輩の中で研究成果がうまく出ず、ハードな仕事・日常生活でした。学位をあきらめかけていた3年目の夏に、指導教官であった当時の教授が急にお亡くなりになりました。故ボスが我々に残された言葉は「志を持ち 遠くを見て 今を真摯に生きる」。その後の時間はあつという間に過ぎ、無事学位が取得できた頃にリハビリテーション西播磨病院で認知症診療をするお誘いをいただき、勤務させていただく次第となったのです。

医療に対して志を持っているか、常に遠くを見ているか、そして今を真摯に生きているか。この言葉を思い出し、少しでも皆様のお役にたて

るよう日々研鑽を積んでまいりたいと考えております。なにとぞ、ご指導賜りますようよろしくお願いいたします。

相生市ペーロン大会で有名なドラゴンボートで広州アジア大会に当院看護師 東海林雅幸・山本洋史が出場しました。



結果は、250mの部で、堂々決勝に進出し、6位に入りました。